

旧道から考えるまちづくり ～やすらぎ歩行空間プラン～

古くから清田区の発展を支えてきた旧国道 36 号。今後のまちづくりに生かすため、この「みち」の将来像を描こうと、地域住民と区役所が一緒になって「やすらぎ歩行空間プラン」を作成しています。
今月はこのプランの中間報告を紹介します。



▲旧道の桜並木



▲検討会の様子

旧国道 36 号は古くからこの地の発展を支えてきた清田区にとって大切な「みち」です。

今後のまちづくりに生かすため、この歴史あふれる「みち」の将来像を描こうと「やすらぎ歩行空間プラン」を策定することにしました。

「国道 36 号（豊平区側）～清田中央通」の区間（地図）には、桜並木のほか歩道の外側に広がる敷地など、素晴らしい地域資源があります。この資源を生かした将来像を、歩行者がやすらぎを感じながら心地よく利用できる空間となるようにプランとして創り上げる予定です（プランは将来のビジョンであり整備計画ではありません）。

このプランは、地域住民で構成する検討会や地域の活動団体が参加するワークショップで作成を進めており、本年 9 月ごろの完成を目指しています。

なお本プランとは別に、旧国道 36 号の一部の区間について再整備工事を進めています（平成 14 年度に開始、平成 23 年度に完了予定）。

基本方針

プランを策定するにあたり、議論の方向性を定めるため 5 つの基本方針を掲げています。

●やすらぎ

桜並木などの既存樹種を生かして、誰もがやすらぎを感じられる美しい景観。

●みどり

花壇や低木を植え、多くの人たちがふれあえる場所。

●安心

遊歩道スペースのでこぼこを解消するなど、誰でも安心して歩ける「みち」。

●歴史

旧道に秘められた歴史や文化を感じることができ、区への愛着心を育む場所。

●楽しみ

歴史や自然を生かしたウォーキングコースを設定するなど、歩いて楽しい「みち」。

